

那覇市議会開設 100 周年決議

このことについて、別紙のとおり議会の議決を得たいので提出する。

令和 3 年（2021 年）11 月 26 日提出

提出者

那覇市議会議員

野 原 嘉 孝	與 儀 喜 邦
當 間 安 則	前 泊 美 紀
古 堅 茂 治	上 里 直 司
奥 間 亮	多和田 栄 子
翁 長 俊 英	

（提案理由）

本市議会開設 100 周年にあたり、これまでの幾多の困難を乗り越え、今日の那覇市の発展と議会活動の進展に尽くされた諸先輩の尊い歩みと功績に、深甚なる敬意と謝意を表するとともに、これからの那覇市の発展、恒久平和のために全力を尽くし、もって市民の負託に応えることを新たに誓うため、この案を提出する。

那覇市議会開設 100 周年決議

那覇市は、かつて琉球王府が存する万国津梁の交流拠点として、アジア諸国との交易で栄え、独自の文化圏を形成した。明治の廃藩置県後、他府県に遅れて大正 10 年（1921 年）に市制施行となり、那覇市議会が設置されて以来、幾多の苦難を乗り越え、課せられた責務を果たし、100 年の道のりを歩んできた。

特に、76 年前の沖縄戦は、住民を巻き込んだ激しい地上戦の戦場となり、本市と沖縄の山容を変え、首里城をはじめとする文化遺産のほとんどを破壊し、20 数万人余の尊い人命を奪い去った。

その後、27 年間に及ぶ米国占領におかれ、昭和 47 年（1972 年）の本土復帰により、日本国憲法及び地方自治法が適用される自治体及び議会として再出発し、二元代表制の一翼を担い、市民の福祉の向上と市政の発展に力を尽くしてきた。

那覇市議会は、これまでの幾多の困難を乗り越え、今日の那覇市の発展と議会活動の進展に尽くされた諸先輩の尊い歩みと功績に、深甚なる敬意と謝意を表するものである。

那覇市議会は、100 周年にあたり、「那覇市議会基本条例」を指針に、市民と行政の架け橋となる「地方自治の津梁」たるべく、議会及び議員としての不断努力を通して、市民生活の福祉向上と県都・那覇市の発展、恒久平和のために全力を尽くし、もって市民の負託に応えることを新たに誓うものである。

以上、決議する。

令和 3 年（2021 年）11 月 26 日

那覇市議会